

SDGsに理解を

市役所、諏訪湖ハイツでポスター展示

東部中3年生が制作学用品回収も

岡谷市岡谷東部中学校の3年生がSDGs（持続可能な開発目標）について知ってもらおうと作ったポスターと、市内の子どもたちに学用品を届けるための「学用品回収ボックス」が、市役所1階ロビーなどに展示されている。9月末まで展示し、SDGsの目標達成のためにできることを呼び掛ける。

同校では、次世代を担う生徒たちに世界の課題を自分事として捉えてもらおうと、昨秋から総合的な学習の時間でSDGsについて学んでいる。今年度は、興味のあるテーマごとに集まった3〜4人のグループでポスターなどの制作に取り組み、約50グループのうち5グループが「地域の方にも見てもらいたい」

と、市役所や諏訪湖ハイツでの展示を決めた。

市役所には「SDGs」いくつ言えますか？」と題したパネルを展示。パネルには「食べ残しをやめよう」「介護業界における人材が不足」などの標語を付けたポスター11点を掲示している。合わせて「学用品回収ボックス」も設置。

ボックスは8日から、諏訪湖ハイツ（同市長地権現町）にも置く。

ポスターを制作した永井果耶さん(15)は「社会では高齢化が進んでいる。より多くの方に高齢者を支えてほしい」と話し、学用品回収ボックスを作った小松亮太さん(15)は「地域の子どもたちに学用品を届けたい。市民の皆さんにぜひ協力してもらいたい」と呼び掛けている。



SDGsポスターや学用品回収ボックスを手に活動をPRする岡谷東部中学校の生徒